



ベガルタキッズラボ Enjoyシェイプアップ

宮城県は「メタボリックシンドローム該当者および予備群」の割合が、都道府県別で全国ワースト3位と高く、県民の課題になっています。また、子ども世代においても、肥満傾向児の出現率が5歳で全国1位、9歳、10歳で全国3位と例外ではありません。

そこで、地域の課題解決に取り組むべく、当クラブでは小学生を中心に『ベガルタキッズラボ Enjoyシェイプアップ』を展開しています。重視しているのは、楽しみながら体を動かすことです。プロサッカークラブのメソッドを生かし、ボールを使った運動やベガルタチアリーダーズとのダンスはもちろん、借り物競争や玉入れなど、運動会のような要素を柔軟に織り交ぜています。できる、できないが目的ではありません。汗を流す喜びを体感し、運動が苦手な子どももまずはEnjoy!!!

活動場所 : 宮城県立こども病院、各小学校、児童館、障がい者施設など

取組テーマ : 健康／S I B

協働者 : 企業／NPO／学校／行政／医療機関

協働者名 : 宮城県保健福祉部健康推進課、宮城県立こども病院、各小学校、各児童館、パートナー企業各社

活動で工夫した点

サッカーだけでなく、チアダンスやリレーなど、さまざまな運動を取り入れながら、個人の運動レベルや身体的、精神的障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちが楽しめるバリアフリーの場を創出しました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

親子で楽しめることをポイントとし、サッカー以外のスポーツの要素を取り入れ、日常とは違った形のコミュニケーションを実現し、家族の絆を深めることを重視した内容を確立した。

クラブや地域の活動後の変化

宮城県の保健福祉部との関係構築に伴い、県が制作したウォーキングアプリへクラブマスコットが採用されました。宮城県立こども病院においては、肥満外来における治療カリキュラムの一環としても採用いただいております。また、本事業に企業、団体からご賛同をいただき、クラブをハブとして企業と自治体を巻き込みながら、官民が一体となり課題解決を推進しています。



協働者の声

宮城県立こども病院で肥満外来を担当する医師から、「県内の子どもの10%は肥満。食事、運動、生活習慣の3つで治療をするが、運動の部分が一番弱い」と話がありました。本事業の目的を説明する調整会議で、「まさに求めていたこと、ナイスゴールですね」と期待のお言葉をいただきました。当日は同医師だけではなく、看護師やスタッフ、県職員の方も参加し、親子にとどまらず協同の輪が広がりました。

参加者の声

「お父さんとサッカーができて楽しかった」、「初めてのダンスが難しかった」という子どもたちの声に加え、保護者の方からは「子どもの諦めない姿が見られた」、「みなで協力している姿に感動した」との声をいただきました。担当医の方も「ご家族も一緒に参加いただきかなりの人数となったことにより、とても賑やかで楽しく過ごせました。みなさん笑顔でお帰りいただいたことが何よりの証であり、収穫です」と手ごたえを感じられていました。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

当日は子どもたちの笑顔が多く見られ、親子の交流やスタッフの参加など、いろいろな垣根を越えて、すべての人が笑顔で一体となる瞬間であふれていました。単年の事業ではなく、5年、10年と継続し県民の課題である「脱メタボ」に取り組めます。

補足

当クラブは、地域のみなさまの想い、33万2千名の署名が集まり、スタートした市民クラブです。東日本大震災の被災地クラブとして「希望の光」を放ち、地域とともに復興へと歩み続ける強い決意を持っています。クラブ創立25周年を経て昨年、ここからだも健康で、多様性に富んだ豊かな社会づくりを目指し「KIZUNA未来プロジェクト」を立ち上げ、本事業もその一環となります。